

平成22年2月1日
原子力安全対策課
(21-89)
<17時30分記者発表>

大飯発電所1号機 1次冷却材中の放射能濃度の上昇について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所1号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力117.5万kW）は、定格熱出力一定運転中の平成22年2月1日、定例の1次冷却材中のヨウ素（I-131）濃度の測定*を行った結果、前回の測定値（1月29日、0.59Bq/cm³）を若干上回る値（0.68Bq/cm³）が確認された。

このため、1次冷却材中の希ガス濃度（Xe-133）の測定を実施したところ、前回の測定値（1月29日、10.0Bq/cm³）を上回る値（87.8Bq/cm³）が確認されたことから、燃料集合体から漏えいが発生した疑いがあると判断した。

現在のヨウ素濃度は、保安規定で定めている運転上の制限値（63,000Bq/cm³）に比べて十分に低いが、今後、1次冷却材中の放射能濃度の監視を強化*するとともに、漏えい燃料の特定調査をするため、今週中に原子炉を停止することとした。

なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

※燃料ペレットを収納している燃料被覆管に、ごく僅かな漏えいがあると、燃料被覆管内のヨウ素や希ガスが1次冷却材中に放出され、その濃度が上昇する。このため、1次冷却材中の放射能濃度を測定し、その変化から漏えいの有無を判断している。

測定項目	定例測定	→	監視強化
ヨウ素濃度	3回/週	→	1回/日
希ガス濃度	1回/週	→	1回/日
全放射能濃度	1回/月	→	1回/週

問い合わせ先(担当：久保田)
内線2352・直通0776(20)0314

大飯1号機 1次冷却材中のよう素濃度および希ガス濃度と電気出力の推移 (第24サイクル 平成21年12月11日～平成22年2月1日)

